

後期高齢者医療制度について

世界に冠たる皆保険制度はなんとしても維持していかねばなりません。



まず、ネーミング(名称)については医学会では定着した用語であっても、政策として出す場合高齢者に対して配慮が足りなかつたと思います。(後で長寿医療制度と改称しましたが)しかし、従来の老人保険制度が負担と受益の関係で崩壊の危機に瀕しており、抜本的改正が必要だということは以前から分かっていたことでした。全国の市町村長から改正を強く要請されてきており、野党も医療法の改正の度に付帯決議に抜本的改正の必要性を盛り込むことを強く要求してきた経緯があります。

自由民主

一たん走り出した制度を元に戻すことは現実的に無理な話であり、低所得層への配慮や天引きの修正等手直しをすることになりましたが、五百六十億円の財源手当てが必要です。基本的な問題は、急速な少子高齢化の中でこれからも増え続けていく老人医療費を誰がどう負担するかということです。苦しい中ですが、世界に冠たる日本の国民皆保険制度はどうしても守っていかなければなりません。昭和四十七年、沖繩が本土に復帰したとき、沖繩の人々が一番喜んだのが、これで病気になることも安心して病院にいけるということだったと沖繩選出の議員に聞いた事があります。

福田総理が消費税5%で皆保険制度を維持している国は日本位のもので、ヨーロッパ諸国はいずれも十五%〜二十五%だと発言していますが、それだけに、毎年の予算削減で医療現場等からは悲鳴が上がっています。毎年二千二百億円の医療費削減は限界に来ており、年末にかけての予算編成でなんとかしなければなりません。経済が発展している時は、大きくなるパイをいかに公平に分配するかというのが政治の仕事でしたが、高齢化が進み経済の成長がそれほど望めない時には、増加していく負担をいかに公平に負担してもらうかが政治の大事な仕事になります。それだけに国民に対して十分な説明をし、納得をもらうという丁寧な対応がより大切になってくると思います。

健康現役社会を目指す

元気で意欲のある高齢者は日本の宝です。落ち着いた成熟国家は世界の模範となります。

さて、高齢者という言葉に耳にしないことはなく、うなこの頃です。年金や医療制度の手直しはもちろんです。しかし、それだけでは足りないと思います。まして制度の不安を煽り、支える世代と支えられる世代とに国民を分けてツケの廻し合いをしている場合ではありません。

日本の高齢世代は世界の中で最も健康(健康寿命世界一)です。そして、人生を楽しみ社会に貢献したいという社会貢献意欲が最も高いという美德を持っています。栄養や医療が充実した日本の高齢世代は一世代前の五十歳台と言われ、元気な方がたくさんおられます。この元気で意欲ある高齢世代こそ日本の宝です。この宝を大切にすることが日本の豊かな未来を切り開くものと考えています。長生きすることに不安を感じない日本、家族や地域社会との絆の中で、健康で長寿の喜びを楽しむことができる日本、こうした日本をつくっていくことが、今の政治にとって一番大事なことでと考えます。

我が国が目指すものは支えられる人数が増えるだけの高齢化社会ではなく、健康でいる間は年齢に囚われず、希望と意欲に応じていろいろな形で世の中に貢献できる「健康現役社会」だと思います。世界一のスピードで高齢化が進む日本です。高齢化社会から健康現役社会への変革こそ日本人にとっての最大の国民的目標であり、後から進んでくる世界の人々の模範ともなるべき挑戦だと思えます。

今進む教育改革

文部科学大臣時代に提唱した、ゆとり教育からの脱皮が着実に進んでいます。子供たちが豊かな人生を送れるように基礎・基本をしっかり教えたい。

私は平成十六年九月に文部科学大臣に就任した直後に「教育改革」を提唱しましたが、それが今、着実に実行に移されており大変嬉しく思っています。

一昨年末、六十年振りに教育基本法が改正され、生

第二の人生を宮崎で暮らしませんか?

七月十一日に公表された政府の「地方の元気再生事業」百二十件(予算二十四億円)の中に宮崎市のNPO法人「サンシティ宮崎」のリフレッシュ・ライフ・イン宮崎プロジェクトと綾町と民間が行うスロウフード運動を活用した二つの事業が選ばれました。

命の大切さと自然を守ること、日本の伝統文化を尊重し継承すること、社会生活における宗教の重要性等の項目が新たに加わりました。今年に入って学習指導要領が改正され、三十年振りに授業時間が増え、教科内容も充実することになりました。武道も必須化されました。ゆとり教育からの転換が着実に進んでいます。

資源に乏しい日本は人材こそが唯一の資源であるとして、昔から教育には力を入れてきました。しかし、経済成長の結果、豊かさを手に入れると同時に教育の大切さを忘れ、個性の尊重とかゆとり教育が叫ばれ、基礎、基本を知らない子供達が放り出されてきました。その結果、かつては世界一を誇った日本の子供たちの学力も今やOECD諸国で中位まで下がり、道徳教育の軽視や情報社会に巻き込まれて、社会規律を守れない、かつての日本では考えられなかったような子供達や大人までが誕生しています。

食品偽装、無差別殺人、公務員の規範意識の低下等を見ると、生命の大切さ、人に迷惑を掛けない、できれば社会の為に貢献できる人間になれ、という人としての基本的な生き方から教えなければならぬのかと思えます。私が大臣の時、「読み・書き・計算」、「早寝・早起き・朝ごはん」運動を提唱し、今、全国的に広まっています。もう一つ提唱した「負けるな・嘘をつくな・弱い者いじめをするな」という昔の薩摩藩の郷中教育の教えが日本中に広まることを期待しています。国会が終わってからは、神奈川県保育園、幼稚園を視察し、子供達が生き生きと育っている様を見てき

これは中山代議士が自民党の中で中心となって進めてきた「頑張る地方応援プロジェクト」の一貫であり、団塊世代の宮崎移住や有機農業や工芸を活かした地域の産業と雇用の創出を図ろうとするもので、全国千八百六十六件の応募の中から選ばれ、年間千六百万円の補助金が交付されます。

「リフレッシュ・ライフ・イン宮崎」は中山代議士が命名したのですが、体力もあり、経済的にも余裕のある団塊世代が宮崎に移り住むことにより、それらの人々も人生を二度楽しみ、宮崎の地域活性化にも貢献すると思います。これからの取り組みが楽しみです。

ました。剣道と掃除を通して礼儀を教え、漢文等も子供達が喜々として暗唱していました。また、森元総理を誘って世田谷の小学校の教育特区、「日本語」の授業を見させていただきました。一年生の時から漢詩、俳句、短歌等を教えています。「春は花、夏はとぎす、秋は月、冬雪さえてすしかりけり」などと大声で朗読し、あつという間に覚えてしまっています。今は意味はよく分からなくても、人生の折り返しに「あつ、そういう事だったのか」と思い出すことでしょうか。私は受験の為の「詰め込み」はいけませんが、人生の為の「詰め込み」は豊かな人生を送る上で大切な事だと考えています。

新一年生に学級崩壊といって席を離れてウロウロする現象が指摘されています。これは座って聞くという躰ができていないのではなく、今の授業内容が易しすぎて子供達が馬鹿にしているのではないかと思えます。低学年ほど記憶力は良いそうです。無限の可能性を秘めている子供達の一日一日を無駄にしてはなりません。

地元の宮崎北高等学校、宮崎西高等学校にも行ってきました。北高は文部省からスーパーサイエンス・ハイスクール(指定を受け、理数系に力を入れています。西高は中高一貫教育として注目を集め、今、中学二年生まで進んでいます。宮崎県の高校はどれも先生方が0時限とか放課後の補習など本当に一生懸命頑張っておられます。生徒達も素直に育っていると思えます。ただ都会の子供に比べ、おとなしく、就職戦線がいまひとつ積極性がなくとも指摘されています。もっと積極的に自分を表現する力を養うことが必要かなと感じています。